

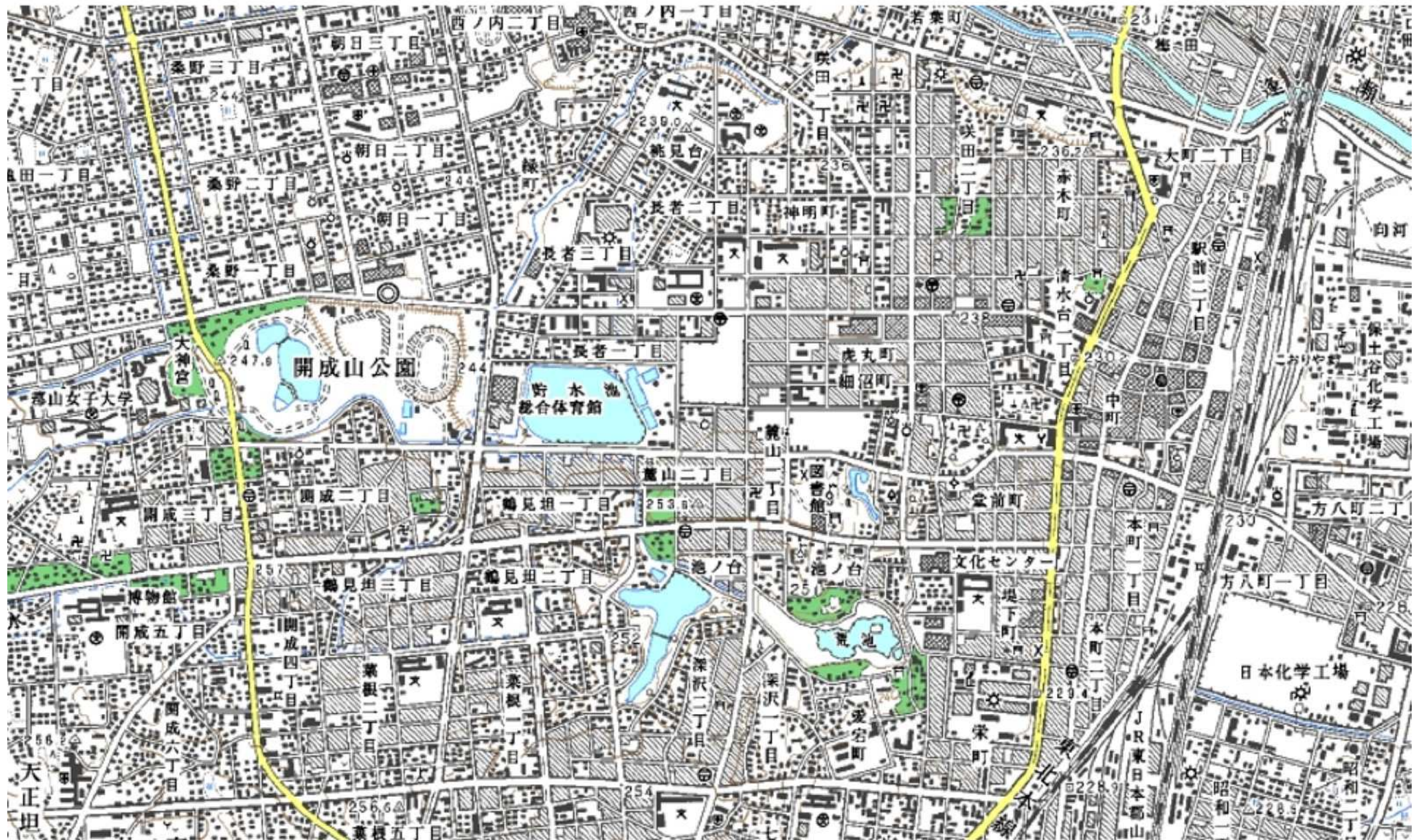
A 3D topographic map of a mountainous region, likely in Japan, showing a river valley. The terrain is color-coded by elevation, with higher elevations in shades of brown and yellow, and lower elevations in shades of green. A prominent river valley runs through the center of the map, with a river winding through it. The map is overlaid with a grid of latitude and longitude lines.

旧豊田貯水池現地見学会および講演会

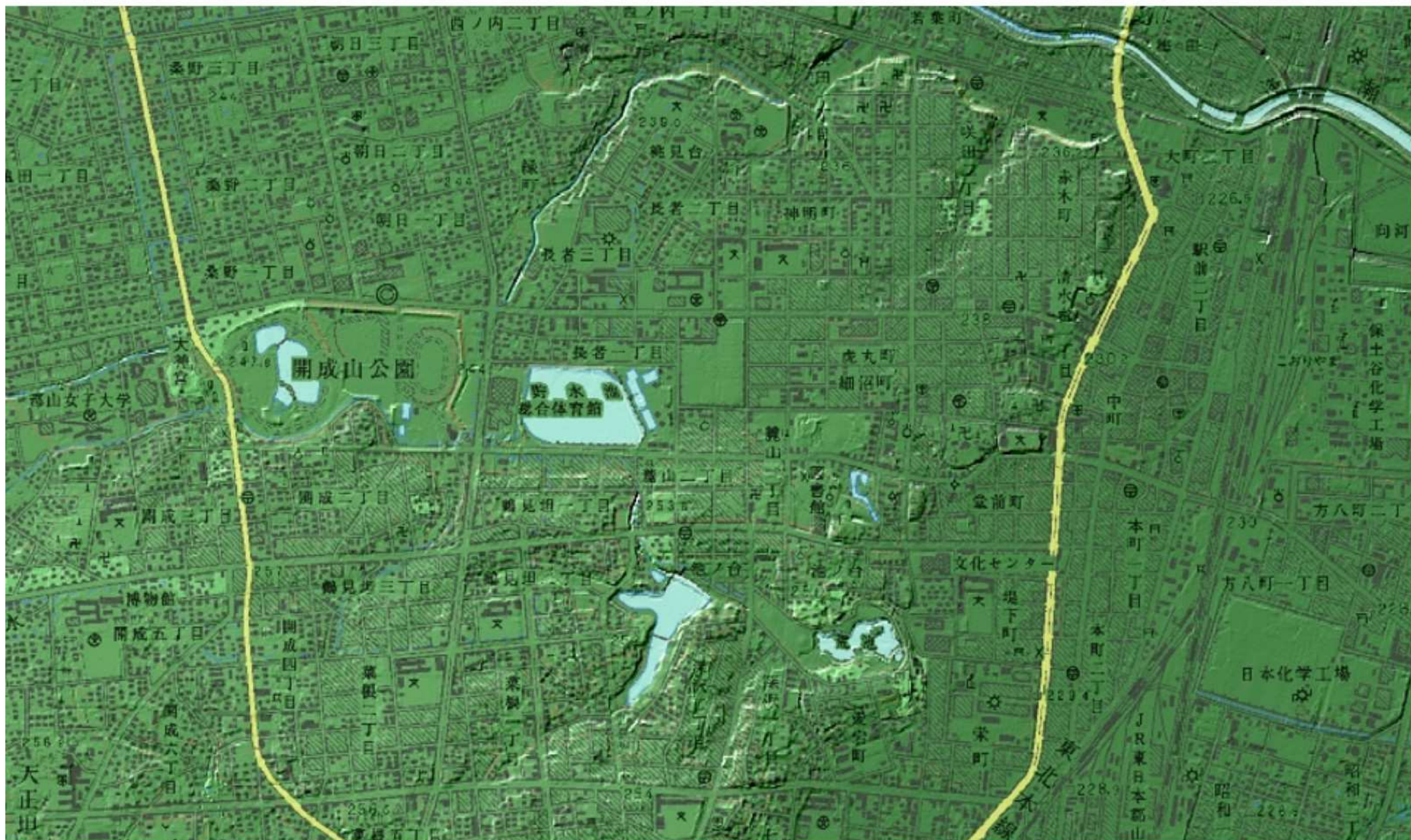
『旧豊田貯水池の歴史』

日本大学工学部土木工学科 准教授

知野 泰明



〔出典：国土地理院『数値地図 25000(地図画像)福島』〕



講演目次

1. 旧豊田貯水池とは
2. 旧豊田貯水池ができるまでの郡山の水道
3. 絵図と地図にみる旧豊田貯水池ができるまで
4. 旧豊田貯水池の運用開始から停止まで
 - 4.1 運用開始
 - 4.2 旧豊田貯水池の建設当時と今
 - 4.3 郡山の水道 拡張事業
 - 4.4 旧豊田貯水池の廃止
5. おわりに

1. 旧豊田貯水池とは

郡山市水道局『郡山市水道100年のあゆみ』
pp.28-29より

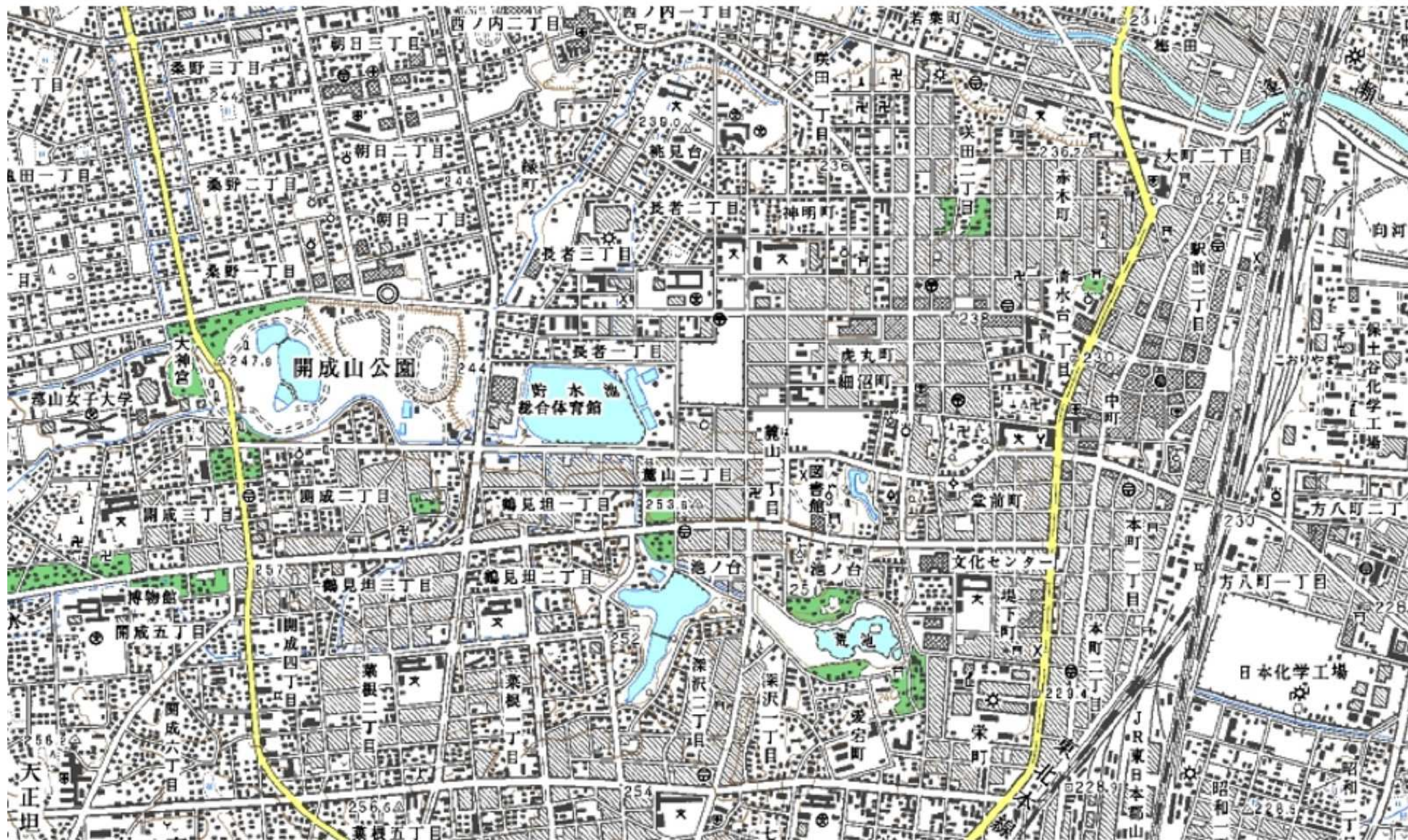


凡 例	
	行政区域
	豊田浄水場給水区域
	堀口浄水場給水区域
	熱海浄水場給水区域
	荒井浄水場給水区域
	取水場
	浄水場
	配水池
	ダム
	川
	専用導水ずい道
	導水管
	疏水
	鉄道
	高速道路・国道



2. 旧豊田貯水池ができるまでの 郡山(町)の溜池と水道

2.1 溜池について



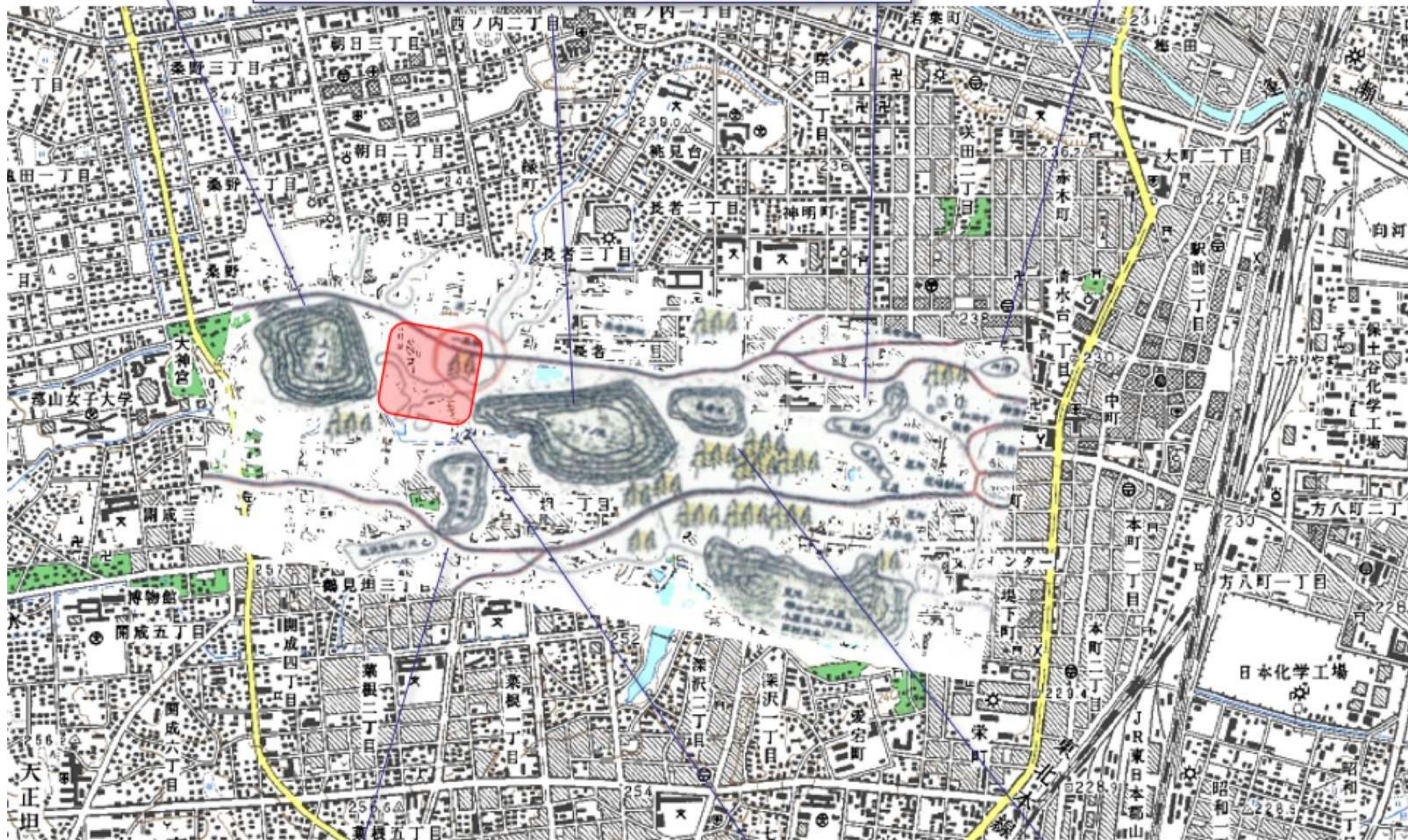
〔出典：国土地理院『数値地図 25000(地図画像)福島』〕

1653[承応2]年:上ノ池

細沼(江戸以前)

皿沼(江戸以前)

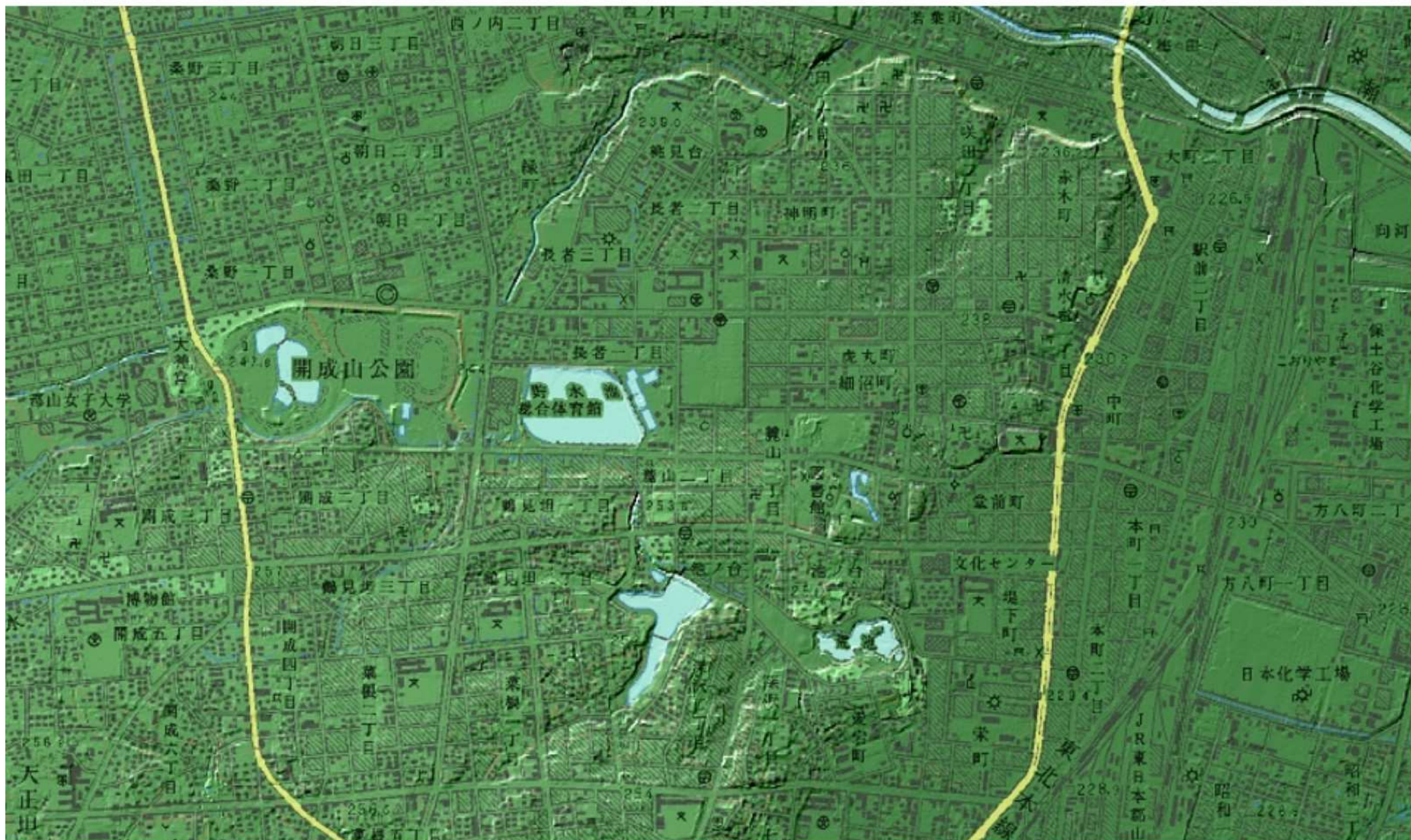
1656[明暦2]年:下ノ池(後:豊田貯水池)

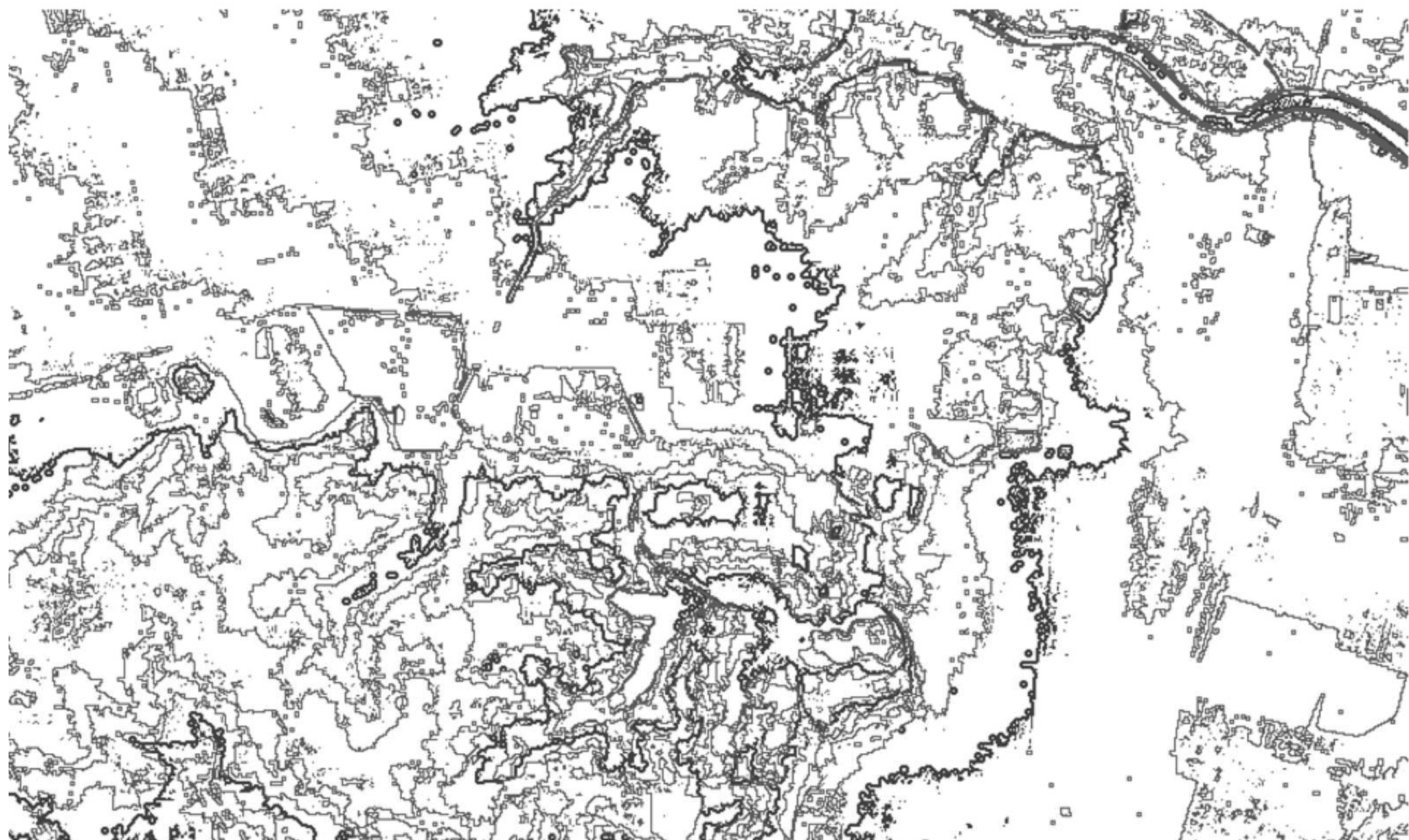


1685[貞享2]年:葉ノ木沢池

1874[明治7]年1月:開成沼

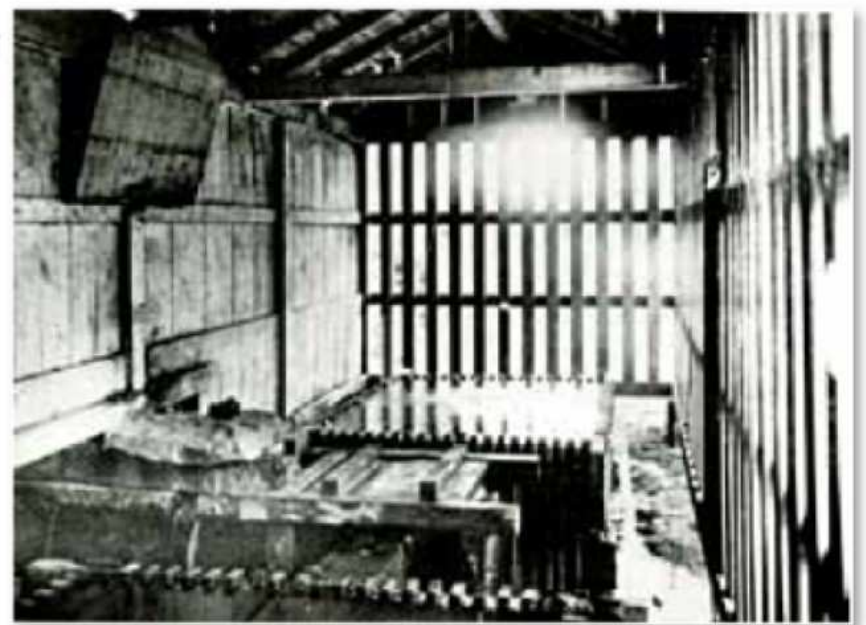
1829[文政12]年:長者池





2.2 水道について

- 郡山町での鑿井：水質は概ね不良質
中には鉄分が多い褐色水
飲料は勿論、雑用水にも適さず
給水開始
- 郡山町の溜池：灌漑用、飲料に適するものなし
↓
∴ 飲料水不足が古来、町民の最大苦痛



[出典:郡山市水道局『郡山市水道100年のあゆみ』p.8より]

■郡山町の近世の水道 (皿沼水道、山水道)

(1) 皿沼水道(含む消火用)

享保7(1722)年:灌漑用溜池

であった皿沼を貯水池として拡大し、分水槽を作り大町・中町・本町等の家へ竹樋を通して飲料水を引水

水の流れ:大槻村→上の池→下ノ池→細沼→

皿池→稻荷田中等の耕地の灌漑

享保21(1736)年:戸数280、人口1,448人、馬100頭

(郡山村大概帳より)

明治15(1882)年の安積疏水通水で第五分水路から流入
夏季は減水、腐臭甚しく、飲料に供せない

明治45(1912)年:豊田浄水場配水開始で5月30日断水

■郡山町の近世の水道

(2)山水(山水道)

1768〔明和5〕年？（「郡山市水道100年のあゆみ」では明和7年）：山水道、築造。郡山の富裕商人が清水台・赤木・虎丸辺りに井戸を掘り、自家用として引水（10軒程）。余水が近所の家のもらい水として分けられていた（約100軒程）。

■郡山町の近代水道

多田野水道

明治21(1888)年4月起工

明治23年2月落成、5月通水

多田野村～郡山町間

(約10km)



多田野水道木管

【背景】

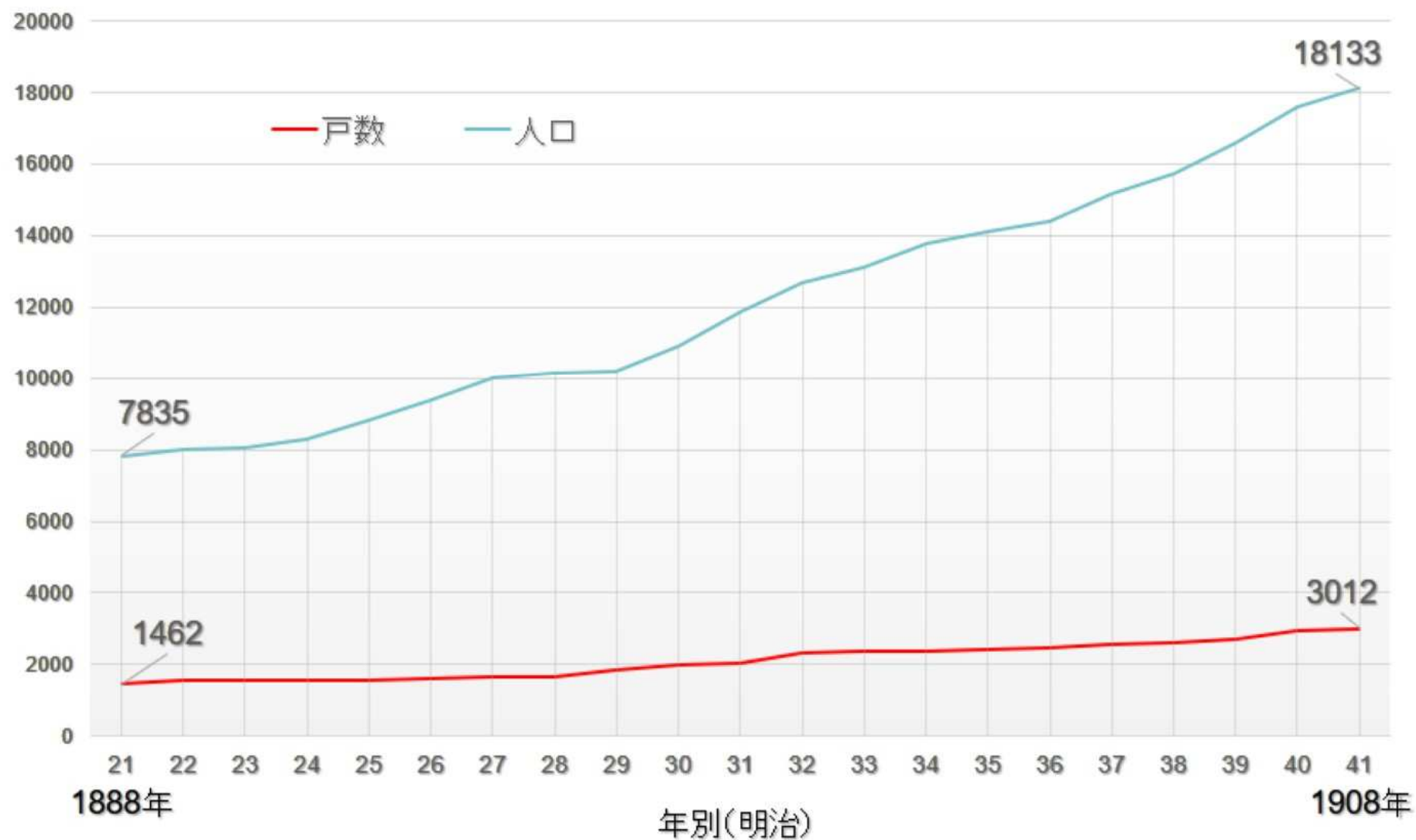
明治20年7月 日本鉄道開通 郡山駅が白河福島両駅
の中間駅となり旅客の往来と物資の集散激増
特に製糸業が盛んに起こり町の面目を一新



飲料水不良による伝染病が年々増加
製糸は水質不良の為、品位劣悪→町の評判上がらず
疏水を利用した水力電気会社が興る
木樋、降雨ごとに悪水混入で飲料に供せざる

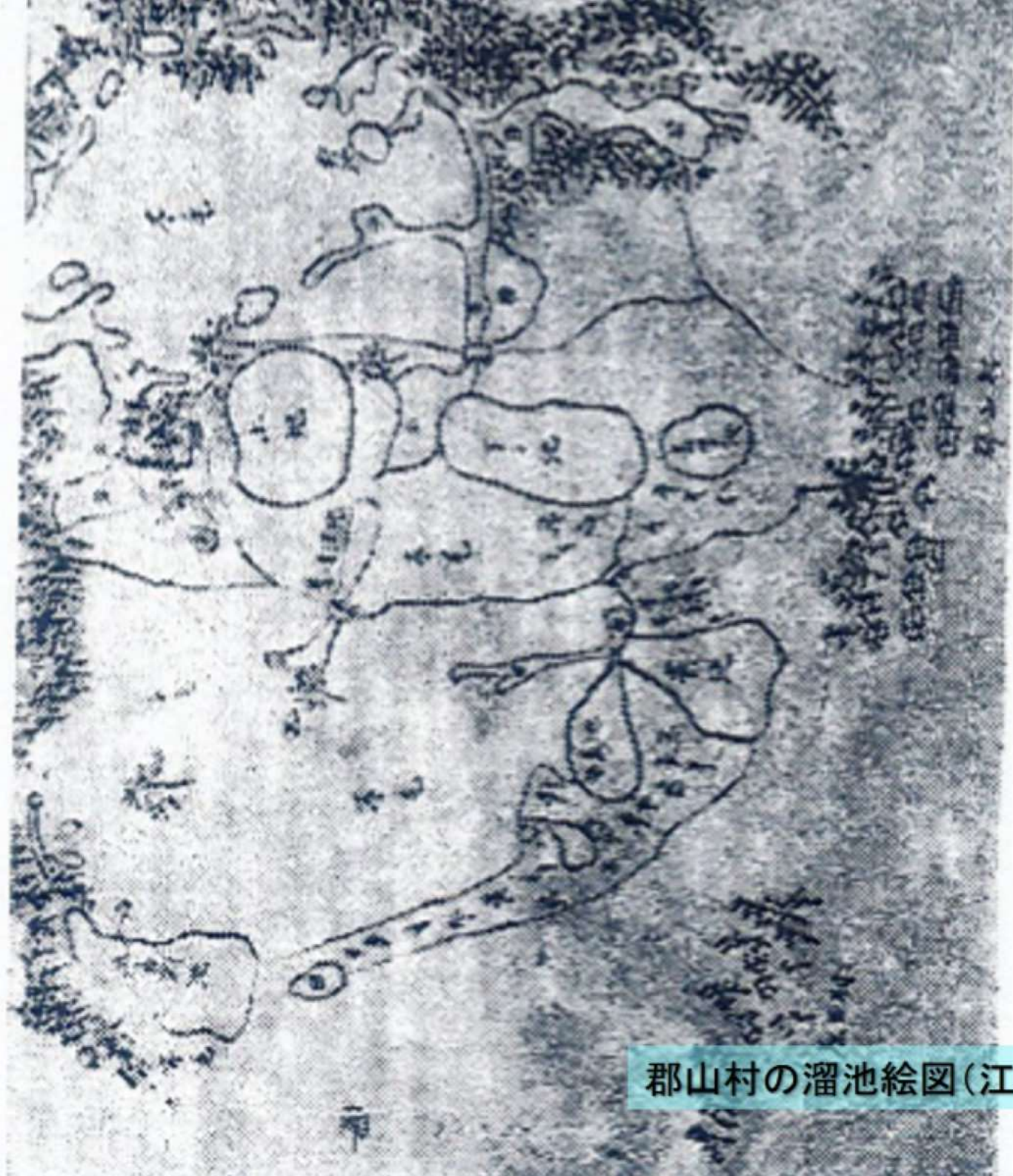
明治45(1912)年:豊田浄水場配水開始で5月に断水
豊田浄水場の原水となる

郡山町の明治21年～41年の戸数と人口の推移 (出典:福島縣安積郡郡山町戸口統計表より)



★享保21(1736)年:戸数280、人口1,448人、馬100

3. 絵図と地図にみる 旧豊田貯水池ができるまで



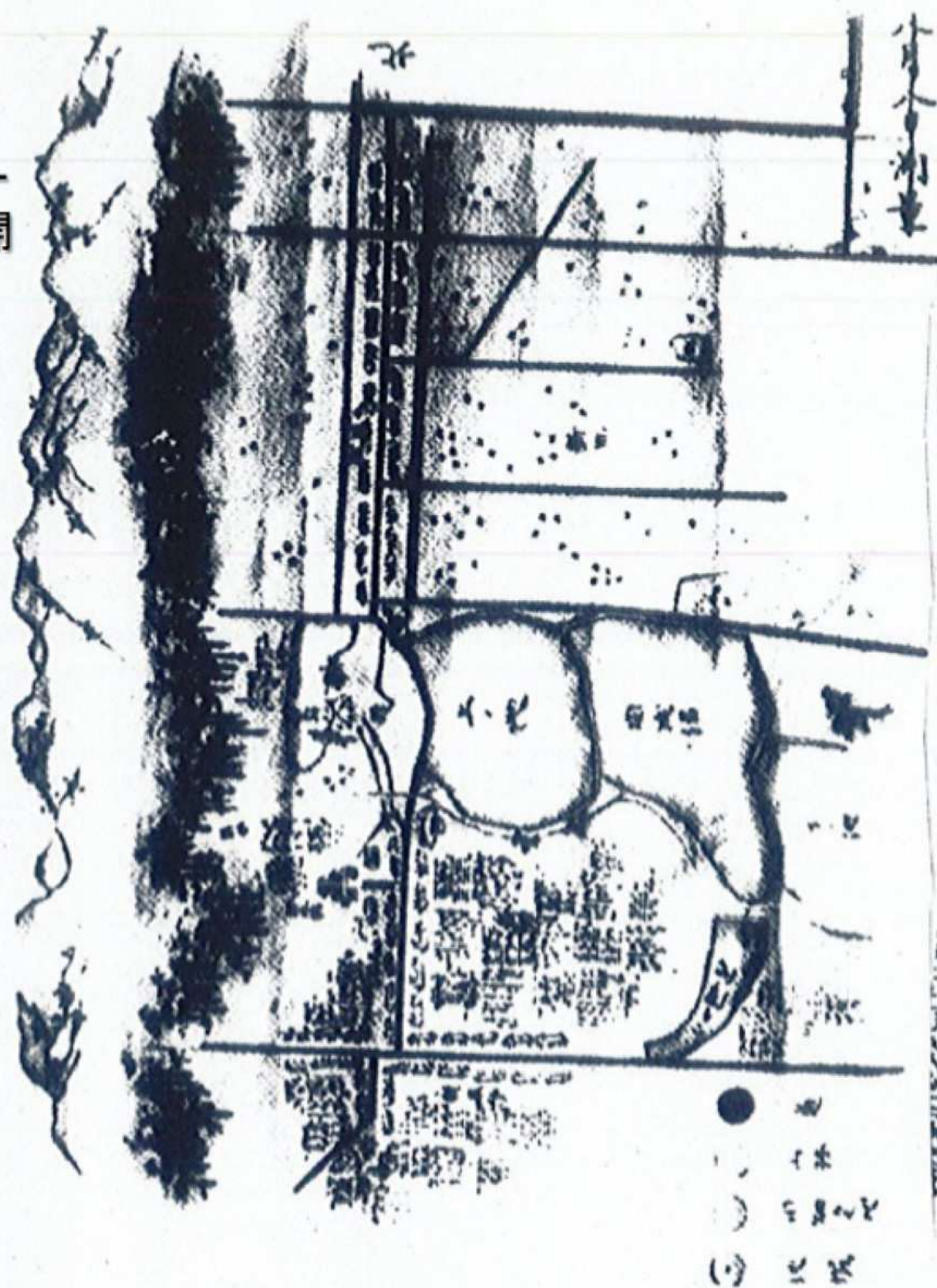
郡山村の溜池絵図(江戸時代)




明治6(1873)年
官有地となった
大槻原(開成山)一
帯の開拓を行う「開
成社」設立

明治7(1874)年
1月5日
開成沼、竣工

明治12(1882)
~15年
安積疏水の
工事と完成



桑野村絵図
(明治8(1875)年
8月8日²³測量)



明治21(1888)年
多田野水道着手
生糸製造で光沢を出す
ための良質な水も必要
であった

同23(1890)年5月
多田野水道、完成
(松材木管約10km)

明治24年10月
皿沼水道
同25年11月
多田野水道の一切の権
利・義務が町に譲られる

明治27年までに
葉の木沢池廃止
(安積疏水通水と池底土
砂堆積による灌漑溜池
廃止の一つ)

明治24(1891)年1/20,000迅速図
「大槻」「郡山」を接続



国土地理院1/25,000地形図「郡山西部」
「郡山」(昭和47年測量)を接続

4. 旧豊田貯水池の 運用開始から停止まで

4.1 運用開始

- 明治45(1912)年3月31日 豊田浄水場竣工, 給水開始
全国23番目、東北3番目の近代水道が創設
秋田:明治40年 一部給水開始 44年全施設竣工
青森:同42年 通水
 - 計画給水人口:30,000人
(大正7年人口20,000人となる)
 - 緩速ろ過池
 - 配水池、配水管敷設工事
- 安積疏水と多田野水道から貯水
(皿沼細沼からの導水と多田野水道、
その他溝渠からの配水断)

4.2 旧豊田貯水池の 建設当時と今

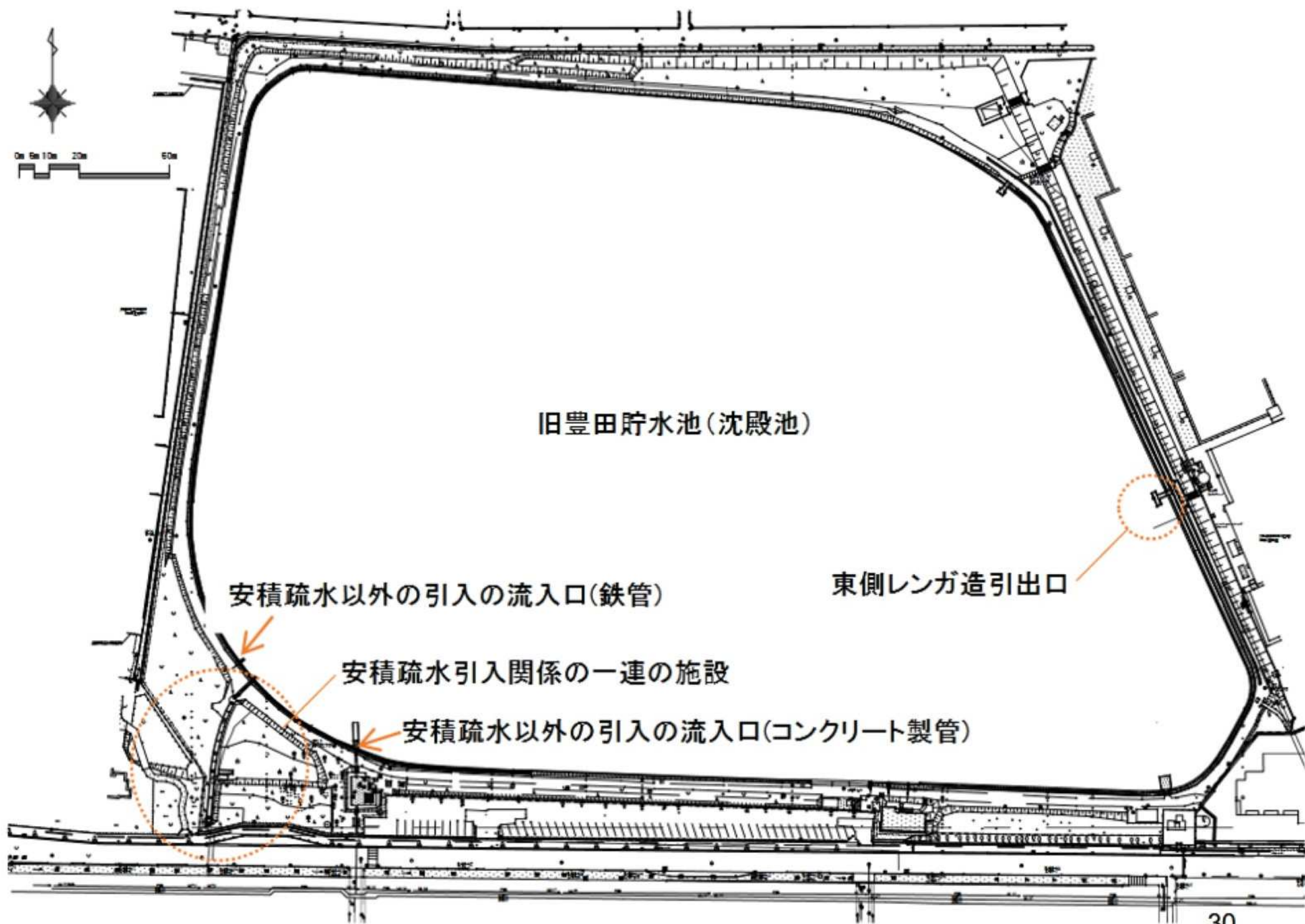
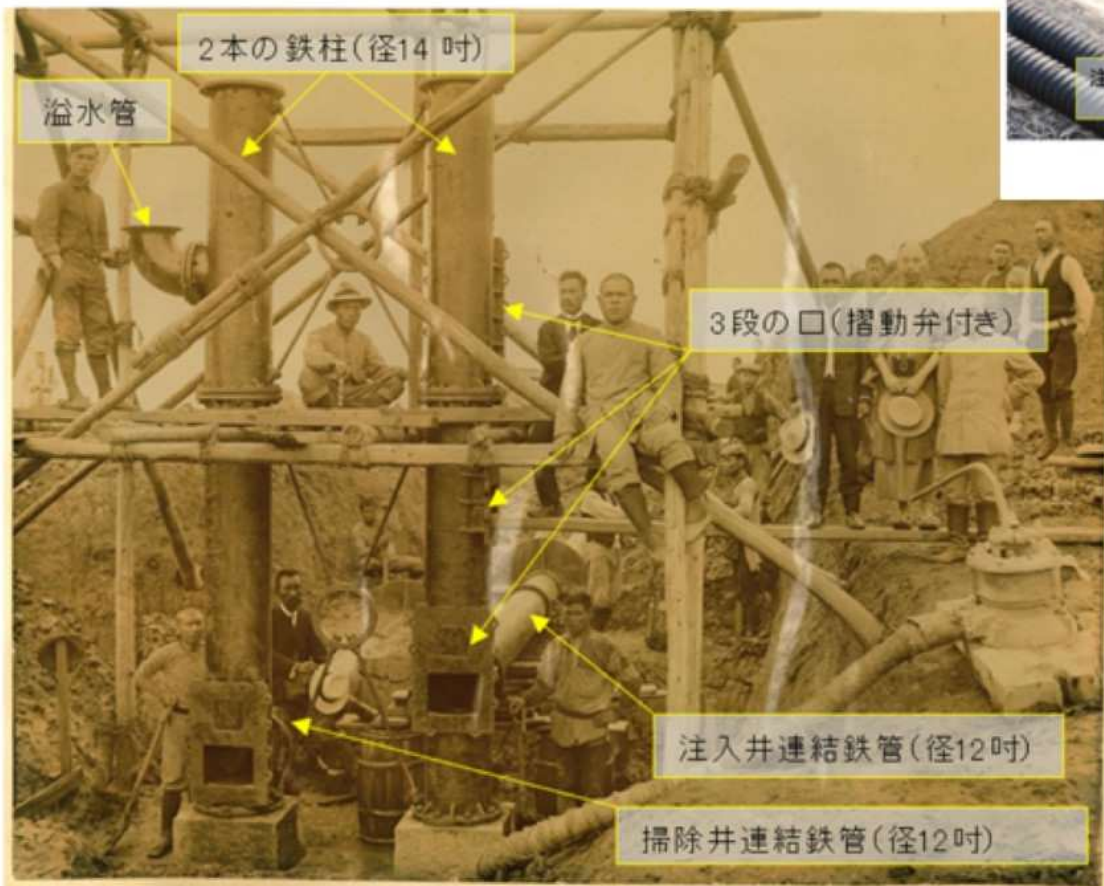


図1 旧豊田貯水池 遺構平面図

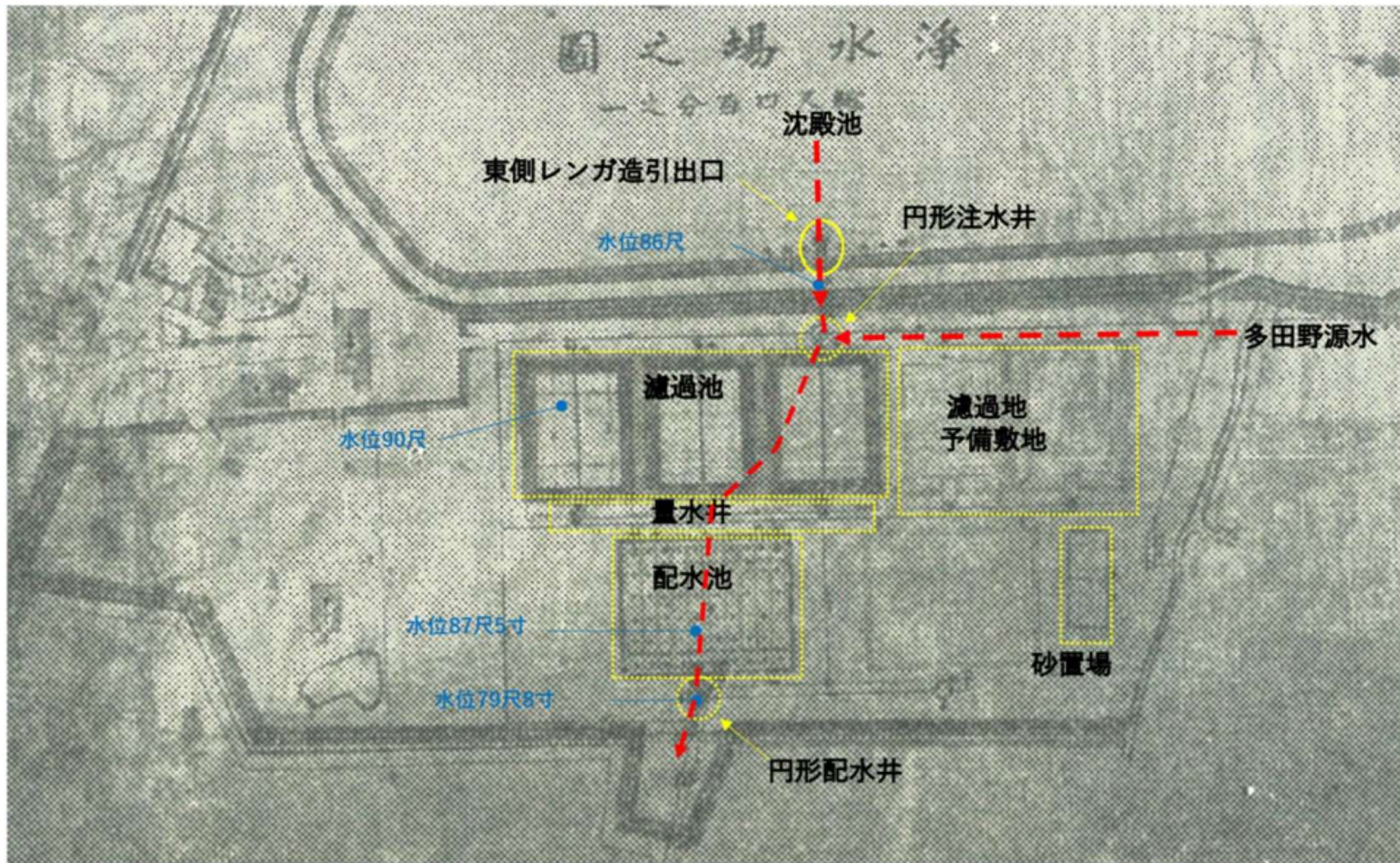


建設当時の古写真

現況



白点線で囲んだ部分以外は、当初の可能性が高い



豊田浄水場における各施設の配置(元図:郡山市水道史より、元出典は不明)



安積疏水引入水路 水門(沈殿施設入口)



① G 安積疏水からの流入口

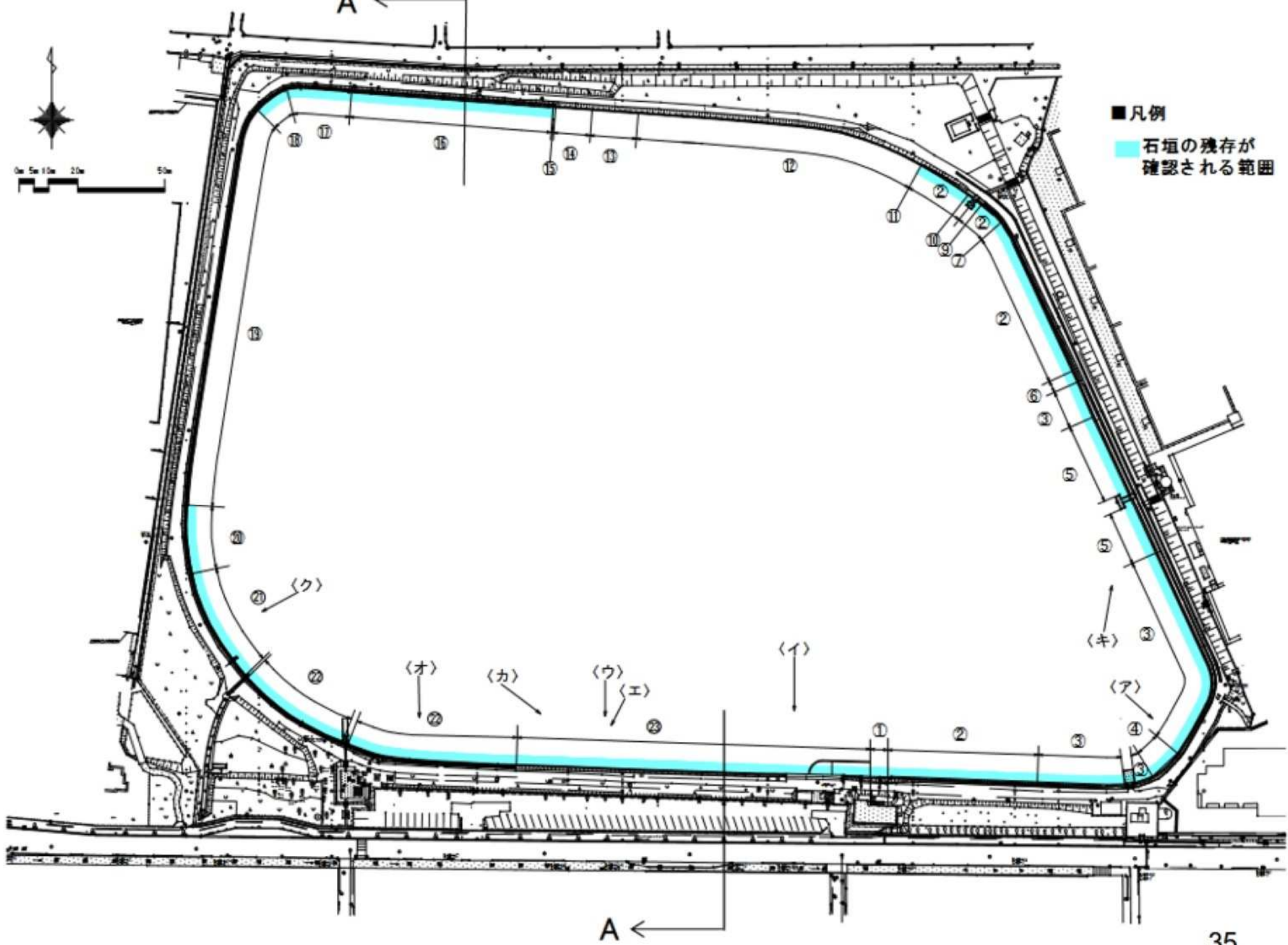
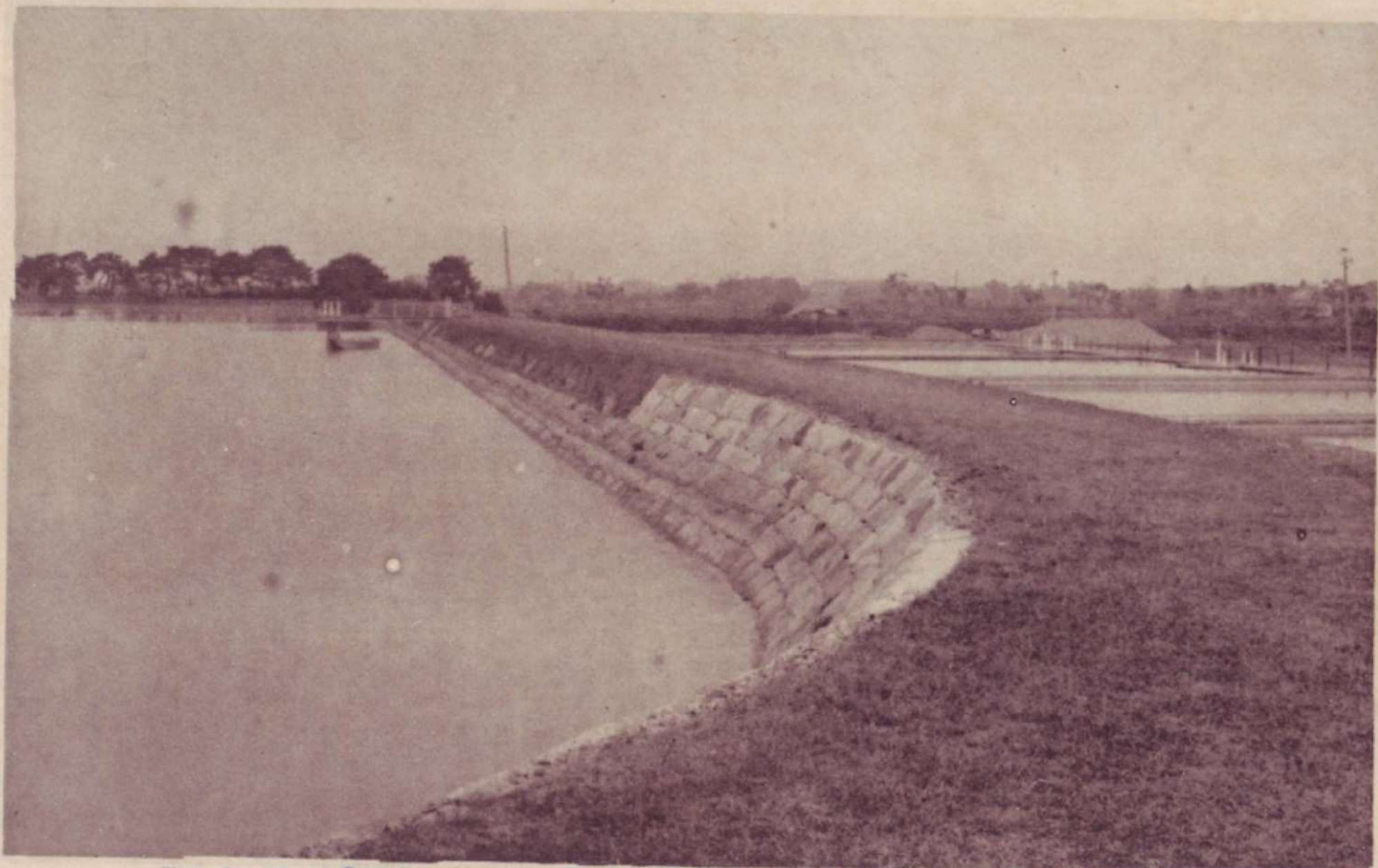


図2 内法の石垣の残存が確認される範囲(目視)



左記写真上部 石垣残存確認



影撮 高橋 正 (行 正)

場水浄道水町山郡 (所名山郡)

4.3 郡山の水道 拡張事業

- 大正12(1923)～14年度
第1次拡張事業(計画給水人口60,000人)
逢瀬川からの取水開始
高架水槽の設置により西部高台に吸水開始
- 昭和25(1950)～35年度
第2次拡張事業(計画給水人口80,000人)
緩速ろ過池、浄水池、配水池の拡張

郡山市水道局『郡山市水道100年のあゆみ』
pp.28-29より



4.4 旧豊田貯水池の廃止

- 平成20(2008)～37(2025)年度
第8次拡張事業(浄水施設統合事業)
豊田浄水場を廃止(平成25(2013)年3月)
機能を堀口浄水場へ統合
(計画給水人口334,900人)
豊田浄水場からの水道給水はポンプ利用
↓
堀口浄水場から標高差利用の自然流下方式
給水区域が拡大⁴⁰

5. おわりに